

図書館が 変わった

この4月、中央大学の図書館が大きく変わりました。といっても「どこかどう変わったの？」という学生も多いでしょう。図書館事務部担当部長の諫山さんに、新しいシステムを説明していただきました。

(学生記者＝船橋 智、吉田 滋)

図書館に入ると、新しいPCが並んでいます。去年までは黒の背景、青い文字という画面でしたが、いまは白の背景に黒字と、大変見やすく明るさを増したと感じます。これも大きな変化といえるところですが、もっと大きく変わったのは、中身である「CHOIS」検索システムなのです。

なぜ、すべてを変える必要があったのか。ここには、いま世間を騒がせている「2000年問題」があります。すでに20年を経ているシステムを、今後も維持していくのかという疑問が残りました。さらに急速に

進むネットワーク社会への対応の問題もあります。旧システムのプログラム変更には、膨大なコストがかかります。旧システムは、1つの大型機を中心に各端末とつながる構成でした。それを現在のサーバー型のシステムにすることで、ネットワークの構築が容易になります。抜本的な変化に踏み切ったのです。

現在、ネットワーク対応のシステムを採用している図書館は全国各地にあります。中大図書館も京大図書館を参考としながら、システムを作りました。結果は、予期した以上のシステムが生まれたのです。それは

「CHOIS」検索システム ネットワークを システム化



新システムを説明する諫山さん

「日本一の図書館」と呼んでも過言ではありません。

では、学生にとって一体、どこがどう変わったのか。答えをまとめてみました。

1つ目は、図書館資料の24時間検索を可能にした点です。好きな時に好きな場所からインターネットで検索できるのです。2つ目は、検索項目が増えたことで、図書館との接点が拡大されたことです。3つ目は、研究所などの機関誌の目次情報の一覧を可能にした点です。4つ目は、「Sweet Net(洋雑誌目次情報データベース)」を導入した点です。

5つ目は、国内外の二次情報の検索・利用を可能にした点です。例えば、早稲田や慶応といった他大学の検索ができるのです。ただし、この機能は設備の関係上、まだ開始することは難しいそうです。

6つ目は、学内刊行物の10タイトルの検索を可能にしました。7つ目は、無料の場合に限り、国内外の全文データベースの検索を可能にしたことです。例えば、他大学図書館などの無料サービス、無料電子ジャー

ナルといったものです。最後はもつと身近な変化である学生証による貸出しです。旧システムでは図書館専

自宅からアクセス、「台湾」の本あった

以上が、新「CHOIS」検索システムの概要です。これから実践してみましよう。

現在、時刻は深夜1時を回ったところ。こんな時間に図書館が開いているはずはありませんが、安心してください。検索が可能なんです。ここが新システムのすごさなんです。つまり「24時間検索が可能、さらに図書館内の端末機からのアクセスだけでなく、学外のPCからアクセスが可能」なんです。

まず、自宅のPCからインターネットに接続し、中央大学ホームページにアクセス。これができたら図書館のページに移動、すると見覚えのあるホームページが出てきました。CHOIS検索の青字をクリック、多摩、理工、学外のいずれからアクセスしているかを選択する画面へ。もちろん「学外からアクセス」を選択。日ごろ図書館内で見ている書誌検索の画面が現れま

用カードを作る必要がありました。この手間が省けます。

す。わが家のPCは普通のPCからCHOISの端末へと変身しました。これで準備万端。授業で課されたレポート『台湾の現状』の参考になる文献を検索します。どんな本があるか、まったく分からないので、書誌検索画面のタイトル欄に「台湾」と入力、これで関連書誌が出るはず。検



新システムに挑む学生記者

索を実行すると、なんと1237件の書誌が該当、題名だけでもチククするのが大変な労力だ。

最近の台湾情勢を調べたいというところで、タイトルだけでなく出版年も指定することにする。1998と入力、再度検索を実行すると、今度は20件が該当。所蔵一覧が表示され、この本は「貸出し中」。残念。

しかし、以前のCHOISだったら再び戻り、他の題名から本を探していたでしょう。しかも、新システム第2のすごさは、題名からの検索から、

海外から「書物の森の散歩」も自由に

まあ、実際にやってみると、以前と比べて本当に使いやすくなったと思います。画面も見やすく、操作もマウスを使うことができ、インターネット・ホームページ検索をするのと同じです。これで図書館という「書物の森」に誰もが自由に入ることが可能となったわけです。

「インターネット」——これは、世界中とつながったことを意味します。世界のどこにいても中大図書館を散策することができるようになり

いきなり著者からの検索に移ることができるのです。今回の場合、『台湾現代政治と派閥主義』の著者、若林正文氏の著作が調べられるのです。著者を示した青字をクリックすると、14件が表示される。どうやら若林氏は台湾の専門家のようです。

あ、ありました。僕の望みにかなうタイトルは『もつと知りたい台湾』。さっそく、所蔵を確かめると、どうやら現物がありそうです。あす、図書館で借ります。これでレポートもはかどるでしょう。

ます。もしかしたら、図書館目当てに海外から留学してくる人がいるかもしれません。逆に、海外に留学している中大生がアクセスし、必要な文献を探すことがあるかもしれません。卒業生が利用することも十分考えられます。

中大図書館を接点に、世界中にネットワークが形成されています。ぜひ、皆さんも「書物の森」を自由に散策し、新たな発見を試みてはいかがでしょうか。